

〔国際会議開催〕

申請者	京都大学大学院 エネルギー科学研究科 教授 下田 宏	2155010
国際会議名称	13th IFAC Symposium on Analysis, Design, and Evaluation of Human-Machine Systems	
開催期間	2016 年 8 月 30 日～9 月 2 日	
開催場所	THE SODOH HIGASHIYAMA KYOTO (京都市東山区)	
申請者の役割	国内組織委員会 (NOC) 副委員長	

概 要：

本会議の主催団体 IFAC (国際自動制御連盟) は、自動制御の分野の国際組織で 1958 年に設立され現在 52 カ国が加盟しており、日本からは日本学術会議が加盟団体となっている。3 年に一度開催される世界大会と並行して、9 つのクラスターのもとに構成されている 30 の技術部会 (以下 TC) が独自に国際シンポジウムを開催しており、本会議は TC4.5 (TC of Human Machine Systems) の 3 年に 1 回開催される公式シンポジウムである。人間-機械系のデザイン、解析、評価に関する研究テーマを広く学際的に扱っており、世界各国から研究者だけでなく産業界から技術者の参加も多く、議論や交流の場としての意義も大きい。次世代社会のインタラクティブな成長と発展には、人間と機械の持続性ある調和が不可欠で、このためには、従来の人間と機械の分業による協働から、人間と機械が透明性の高い相互作用を通じて共適応できる融和を目指す必要がある。本会議ではその基礎理論、応用技術が議論されるだけでなく、社会の危機管理政策の立案あるいはレジリエンス向上を目指して様々な政策立案に大きな役割を果たすことが期待されるものである。

今回の開催は、これからの社会を我が国の技術が牽引していくための好機となったと考える。さらに深刻な高齢化社会を世界で最初に経験することになる我が国において、人が中心となり人が主役となる次世代ものづくりにおける人間とロボット・自動化技術の共生のあり方についても有意義な意見交換がなされた。今回の会議の成功は当該分野での我が国のプレゼンスを大いに高めることになり、今後の国際的な協力体制、とくに EU や NASA をはじめとする欧米との国際共同研究プロジェクトの構想についても活発な議論がなされた。